

授業概要

学習とは、「経験によって生じる比較的永続的な行動の変容」とであるとされる。学習心理学の対象は、学校の勉強に止まらず、日常生活の様々な場面で見られる行動をも含む。本講義では、学習に関する身近な現象を取り上げながら、学習心理学の理論と方法、その応用について講義する。また、授業の中で簡単な心理学実験を体験することで、学習心理学および心理学全般への理解を深めていく。後半は、人がどのようなプロセスで言語を学ぶのかについて、現在も論争が繰り広げられている言語獲得のメカニズムについて講義する。

授業計画

第1回	ガイダンス：学習心理学とは？
第2回	学習の定義：動物の学習と人間の学習
第3回	経験の効果：馴化と鋭敏化
第4回	学習の仕組み：古典的条件づけの基礎
第5回	学習の仕組み：古典的条件づけの手続き
第6回	学習の仕組み：オペラント条件づけの基礎
第7回	学習の仕組み：オペラント条件づけの手続き
第8回	学習の仕組み：オペラント条件づけにおける強化と罰
第9回	条件づけの臨床的応用：行動療法
第10回	様々な学習(1) 観察学習
第11回	様々な学習(2) 条件づけ以外の学習
第12回	人はいかにして言語を身につけるのか(1)：オペラント条件づけによる学習モデル
第13回	人はいかにして言語を身につけるのか(2)：生得的制約説
第14回	人はいかにして言語を身につけるのか(3)：社会的相互作用説
第15回	言語獲得の臨界期と第二言語学習
第16回	学期末試験（筆記）

到達目標

心理学における学習とは何かを理解し、基本的な学習の仕組みとその過程について正しい知識を身につける。また身近な事例を用いて様々な学習形式を理解し、臨床や教育場面における応用を学ぶ。

履修上の注意

学習・言語心理学における基本的な知識を吸収するように努めること。「学習」と「言語獲得」の関係に興味のある学生の受講を期待する。本講義では、理解を深めるため、授業中に簡単なワークショップやレポートを課すことがある。遅刻や欠席に注意すること。

予習・復習

講義の最後に予習・復習のポイントを解説する。授業中に指示した用語や興味を持った用語、理解が十分でない内容は各自で確認しておくこと。講義で詳しく扱えない内容については適宜関連図書を紹介するので、興味を持った内容については、各自読んで欲しい。

評価方法

評価は、授業に2/3回以上出席し、授業時間内に実施する課題（ワークショップやレポート）を行い、かつ最終試験を受験した者に対して行う。最終試験の成績70%に、平常点（受講態度および課題）30%を加えて総合的に評価する。

テキスト

使用しない。必要に応じて参考文献の紹介と資料の配布を行う。